

北京聯合大学旅游学院長期留学最終報告書

2019 年度長期交換留学

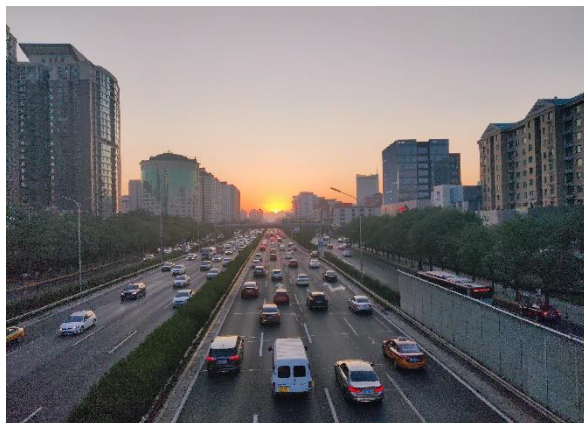
中国、北京聯合大学旅游学院

文化学部 文化学科

173103 福岡銀花

一年前の今頃、もう少しで中国に行くんだ！と、とってもわくわくしていた私の胸は、今は落ち着いていて、楽しかったなあと留学生生活を振り返っています。本来ならば一年間中国にいる予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で、1月30日に帰国し、残り半年は日本で北京聯合大学のオンライン授業を受けて「留学生生活」を終えました。

まずはじめに、私がなぜ中国に留学したいと思ったかということ、中国語を上達させたいということ、大学生のうちに様々な経験をしたいと考えているからです。1年生のときに中国語の授業を選択して、もっと中国語や中国の文化に触れてみたいと思うようになりました。また、1年生の夏に東アジアサマースクールというプログラムに参加させていただいたのですが、そこで中国人の友達ができ、中国に行ってみたい！という想いがとても強くなっていきました。（そして中国留学は費用が安いことも理由です。）留学を終えた今、大学生の間に、普段自分が暮らしているのとは異なる世界を自分の目で見て、肌で感じて、視野を広げることは大切だと改めて感じています。



学校の近くの歩道橋から&愛すべき中国料理



中国で半年間受けた授業のことを書きます。私は全部で5級あるうちの、下から2番目、2級のクラスで半年間学びました。留学中、自分と同じ国の学生とどう関わるのかについては人それぞれだと思いますが、私はせっかくの留学生活、日本人同士であまり関わりすぎないようにしようと考えていました。そのため、クラスも日本人が多いクラスは避け

て、授業も他の国の学生と座るか、一人で座りました。クラスにはタイ人が一番多く、他にロシア、トルクメニスタン、韓国などの学生がいました。タイ人は留学に来る以前の中国語学習期間が長く、中国語がよくできます。そのため、いい刺激になりながら勉強できました。授業は中国人の先生が中国語のみで教えるため、全く新しい内容を説明されると、ほとんど分からないことがあります。なので予習復習は必須でした。



北京の寒い冬
凍った川の上でスケートをする人々

私がほんとうに悩んだこと、それはまさに中国語の能力不足です。はじめは、ちょっとしたこと、簡単なことでさえ伝えるのが難しかったです。空港に着いて2つ預けたはずの荷物が一つしか出てこなかったときなど、少し問題があるときが大変です。一度洗濯機が洗濯途中でエラー表示が出てしばらく待っても動かなくなったことがありました。故障や異常があってはいけないと思い、宿舎の管理人にすぐに伝えに行ったのですが、日本語であればすぐに伝えられると思うように伝えられず、夜一人だったこともあって、とてももどかしい思いをしました。自分中国語レベルが低く、特にはじめは言語コミュニケーションにおいて上手くいかないことが沢山あるだろうなと十分覚悟はしていたのですが、それでも伝えたいことが伝えられないことの大きさを身に染みて感じました。

また、中国に来たものの、中国人と交流する機会が少なく、はじめの1ヶ月が経っても、全然中国語伸びてない!このまま時間が流れていけば、留学が終わっても大して変わってないんじゃないか、ととっても不安でした。北京に着いて、授業が始まって2週間くらい経ったとき、教科書の文を暗記するという宿題が出されたことがありました。授業終わりに先生が口頭でさら〜と言ったのを私は聞き取れず、宿題はないと勝手に思い込み(ない日もあったため)、次の日に見事に指名されて、しどろもどろにしか言えず、とっても恥ずかしかったです。勇気を出して中国語で話しかけたのに、私の中国語がひどかったのか、「英語で話せ」、と英語で返されたこともあって、なかなか落ち込むこともありました。

それでもだんだん勉強のやり方がつかめてきて、いろんな人が、困ったことがあったら何でも聞いてね!と気にかけてくれて、買い物ときや、中国人の友人との会話も楽しめるようになっていきました。途中からは中国ドラマを見始め、リスニングや教科書の例文

でない言い回しを学ぶようにしました。個人的に、中国語上達のためにドラマを見ることはいいことだと思います。少しずつ、褒められることもでてきて、私の拙い中国語に付き合ってくれた友人たちにはほんとうに感謝の気持ちでいっぱいです。

生活面で、いろいろな違いを感じました。日本より清潔感は全体的にないですし(特にトイレ)、細かいところは気にしないことが多いです。でもそうかと思えば、地下鉄や図書館は一回一回セキュリティチェックがあり、厳しい部分もあります。車や自転車に乗ってる人はクラクションやベルをたくさん鳴らします。はじめは一回一回私かな?!と思ってしまいうし、なんでそんなに鳴らすのだろうと不思議でした。そこで中国人の友人に質問すると、「私も前の歩行者に今から自転車が来ることを知らせるために鳴らすよ」と言われて、考え方の違いを感じました。それから驚いたことは、日本人という私の想像より多くの人が分かるということです。特に友達になった日本語学科の生徒何人かは、日本のアニメやドラマについて私より詳しく、日本のアニメ等を褒めていて、特に私は感じたことがなかったので驚きました(日本語学科なのでそんなに驚くことはないかもしれませんが)。日本語学科の生徒以外にも、タイ人やメキシコ人も少し日本語が話せたりして驚きました。本屋さんにも夏目漱石、太宰治、東野圭吾の本を多く見かけました。



かわいらしいおっさんパンダ

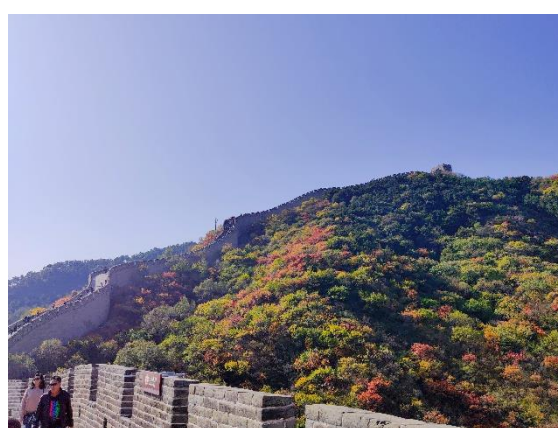
新型コロナウイルス感染拡大時の状況について少し書きたいと思います。1月に中国では感染者の数が徐々に増加し始め、私も気にするようになりました。中国では日本のように1月1日を正月としては祝わず、旧暦の正月を春節として祝います。2020年は1月25日で、それに伴う春節休みは24~30日だったため、北京などの大都市に働きに来ている人々が帰省していました。コロナ以前に北京は多くの店が閉まり、人通りも少なかったのですが、以降はさらにガランとしていきました。多くの大学生が寮に住んでいるのですが、1月上旬に長期休暇に入り、中国の学生は帰省し、それ以外の国の学生もほとんどが帰国していました。私の日記を見ると、1月26日で中国本土の死者数が56名、27日で80名というような状況で、そのころには寮を自由に出入りできず、寮の管理人に許可をもらい(スーパーに食料を買いに行くくらい)、検温、名前や連絡先等の記入が必要でし

た。外出しなくても1日2回の検温があり、武漢以外、北京でも感染者が出始め、街はいよいよバイオハザードのようになっていきました。これからさらなる感染拡大の可能性を考えて、急遽帰国することにしました。今や世界中に広まってしまった感染が、一刻も早く落ち着くことを心から祈っています。

日本でのオンライン授業は、lineのような、wechatという中国で主流の連絡手段を用いました。中国時間の朝9時にパワーポイントのようなものが送られてきて、48時間以内に宿題を終わらせる必要があります。家で一人ですとなると、だらけてしまいがちなのが少し問題でしたが、通信面の問題はほとんどないまま終わることができました。

実際に中国にいたのは半年でしたが、素敵な経験がたくさんできました。特に思い出に残っているのは、四川とハルビンに旅行に行ったことと、万里の長城に行ったことです。四川は10月の国慶節に、東アジアサマースクールでの友人が遊びに来ないかと誘ってくれました。一人で寝台列車に33時間、中国人風にカップラーメンを食べながら乗っていきました。中国の列車乗り場は空港のようです。その友人のおじさんが経営している劇場で皮影という伝統的な劇などを見せてもらったり、初めてカエルを食べたり（鶏肉のようで美味しい！）、中国人でも普段見ない雪蓮果という果物を食べさせてもらったり、道教の山に連れて行ってくれたりとほんとうによくしてくれました。彼女はとても日本語が上手で、ドラマでの勉強を教えてくれたのも彼女です（以後私は中国ドラマにはまっていきました）。私も日本に来た海外の友人には同じようにしていきたいです。

ハルビンは1月の冰雪祭りを見に、日本人の友人と2人で行きました。中国の東北部にあり、冬の平均気温はマイナス20度と、厳しい寒さです。しかし冰雪祭りは言葉にならないくらい綺麗で、数年前から一生に一回は行ってみたい！と思っていたので、とても感動しました。中国は広く、これらの旅で各地の違いを実感しました。



中国に対してネガティブな印象を抱いている人もいるかもしれませんが、ここで書くことではないかもしれませんが、私自身、今回の新型コロナウイルス関連の中国政府の情報公開や、香港への政策には賛成しているわけではありません。政治が与える影響は大きいですが、半年やそこら留学に行く程度、ましてや観光では、私たち外国人が不利になるようなこと

は基本ありません(それどころか日本人と分かれると歓迎してくれます)。イメージは知らないうちにでき、誰かを責めることは違いますが、中国文化を体験した者として自分に何ができるのか、しっかり考えて、何か行動しようと思います。

中国に行って、いろんな人と出会いました。それでもみんな、それぞれ帰る場所があって、それぞれの人生が続いて行って、北京で本当にたまたま一時一緒になったただけなんだなあとしみじみ感じたりもしています。ひとつひとつの出会いの大切さを感じました。また会えるときを楽しみに、中国語と格闘し続けたいと思います。

長くなりましたし、うまく書けているか分かりませんが、最後まで読んで下さりありがとうございます。そして、このような留学の機会を下さったことをとっても感謝しています。手続きや、いろんなことを気にかけて支えて下さった国際交流の方々、先生方。せっかくだからお金のことは気にせず、行きたいところに行きな、といってくれた家族。そして、一緒にたくさんの素敵な時間を共有したチャームングな友人たち！本当にありがとうございました。

